

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

教員としての夏休みは・・・(近況報告)

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

私が学生だった頃、「先生って仕事は長い夏休みがあり、自分の講義時間以外は自由で、なんとも楽なものだ」と思っていたことがある。今となっては、当時の自分に往復ビンタをしたいぐらいだ。ただ、この夏休みもバタバタと忙しかったものの大変充実した時間を過ごすことが出来た。



① 優秀論文集の作成にむけて

前期のキャリアデザイン入門では、受講生全員に課題として質的調査に取り組んでもらった。本当は全員の論文を冊子にまとめたいたのだが、受講生が750名と多く、それは難しい。そこで一部(といっても70名)の論文を代表作として選んだ。「キャリア」を考える講義での産物だからこそ、選ばれた学生たちには印刷会社とのやりとりが出来るようにした。与えられた納期までに論文をブラッシュアップして提出する。提出(メール添付)の際には、当然、社会人としてのビジネスマナーが求められる。校正作業を経て製本されるわけだが、その過程においても色々な社会人との交流がある。そうした交流を通して、少しずつ社会や仕事に興味を持ってもらえたら幸いである。

② 2泊3日の就業力合宿

この合宿は、就業基礎力養成Iを受講している学生から、「合宿したい!」との声があり、実現したものである。発表や議論を中心とした授業は、時間が足りずに終わってしまうことが少なくない。そこで希望者を募ってみたところ、約30名の学生から応募があった。結論的には、非常に有意義な3日間となった。しかしながら、こうした合宿に参加する学生はもともと意欲的で能力も高い。国の政策ではないが、対人関係や集団生活に苦手意識がある学生、あるいは将来のことを自分の問題として考えられない学生にも、参加してもらえようようなプログラム作りに挑戦したいと思う。

③ 韓国の大学へ調査に

日本社会と韓国社会は似ているところが多い。程度の差はあるにせよ、どちらの国も学歴が重視され、大学卒業後に職業社会へと移行していく。雇用システムの面においても、経済危機が起こるまでは年功序列を基本とし、安定的にキャリアを形成することができた。しかし現在の韓国の労働市場は、日本社会以上にシビアな状況にある。学校卒業後すぐに就職できる者の割合は学校ランクと完全に相関しており、一部の上位校でなければ非常に厳しい。そのため、多くの学生は在学中に経歴(インターン、ボランティア、留学、資格取得)を積むことに余念がない。学生たちから学ぶことの意識が希薄化していくなかで、大学は就職支援業者を外務講師にすえたキャリア教育を拡充させている。これらは対岸の火事ではなく、日本の大学におけるキャリア教育の在り方も再考させられる。就職(活動)が大変だからといって、大学がそればかりに目を奪われてしまうと、職業社会へ移行した後の彼らのキャリアを劣化させてしまうことにもつながりかねないだろう。キャリアという言葉が人生全体を指すものならば、就職(活動)に限らず、幅広い視点で大学教育の社会的意義を学生に伝えていく必要があると考える。

略歴

法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)
修了後、法政大学大学院政策創
造研究科博士後期課程に進学。

2011年3月、同博士課程中退。

e-mail:

shohji.shirai.36@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F



略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84～89年
京都大学経済研究所助手、90～97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年～03年法政大学経営学部教
授、04年～IM研究科教授。

自分の頭で考える力を養う

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

先日、従業員規模500人の会社の社長とお話をする機会があり、彼から次のように言われました。「先生、うちみたいな中企業でも新卒学生が150人も面接に来てくれます。ありがたいことです。でも、採用したいと思う人材が一人もいませんでした。」

どの学生も面接準備を入念にしてくるので、想定した質問にはよどみなく答えるそうです。しかし、準備していない話題になると、まったく何も話せなくなるということでした。これは、ふだんから自分の頭で考える訓練をしていないためだと思います。社会現象に興味を持ち、常に「なぜだろう?」と考えながら日々の生活を送っていれば、どんな話題にも一応の対応ができるはずですよ。

キャリア教育とは、私たちが生きている社会の仕組みに興味を持つことから始まります。自分の頭で考えられる学生を育てることが大学の第一の役割だという思いを強くしました。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70～06年伊藤忠商事(株)勤務、06～11
年帝京大学と法政大学職員。
11年～法政大学教員

他大学との交流促進を!

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

夏休み期間中にセミナー参加や来訪受入れという形で、就業力支援に関して11大学と情報交換する機会を持ちました。キャリアセンター中心に取り組んでいる大学が教員中心に取り組んでいる大学より多い感触であった事、各大学がその規模・特性・得意領域などを活かして取り組んでいる事など大いに勉強になりました。又、こうした取り組みを積極的に広報してくれるネット開設などサービス提供の充実をありがたく感じています。これからの方向性として、それぞれの取り組みをどんどん他大学と共有することに加えて、相互の講師派遣による出張講座や更に講師紹介という所まで広げていく事が出来ないかと感じた次第です。



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多くの
大学でキャリア論の講師を務める。

明確な情報発信の重要性

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

8月7日のオープンキャンパスに際し、当プロジェクトも「大学教育と就業力」というテーマで公開講演会を開催いたしました。当日は88名の方々に受講戴きましたが、その多くは法政への入学を検討している親子連れで、各教員の講話を熱心に聴き入っておられました。

就業力というと、すぐに就職対策と思われがちで、受講者アンケートの中にも「専門知識を学ぶ時間が短くならないか」と危惧されるご回答がありました。そうした先入観を解き、本来の学業を通じて身に付けられるものであることや、法政の独自性を伝えていく明確な情報発信は本当に重要だと感じます。このニューズレターだけではなく、機会があれば何処にでもご説明に参じ、意見・情報交換をしたいと思っております。

◆ 課外講座「就業力養成ゼミ」が始まりました。

「自分を鍛える!」を合言葉に、毎週木曜日の1時限目に全15回の課外講座「就業力養成ゼミ」がスタートしました。毎週違った課題のグループワークやアセスメントテストに取り組みながら、要点メモも身につけていくこの講座には、3年生を中心とした市ヶ谷・多摩・小金井の全キャンパスの学生が参加しています。企業と大学の現場を知る有田講師が参加者の実践力を引き出していきます。

日時: 2011年9月22日～2012年1月19日の毎週木曜日1時限目(9:30～11:00) 全15回

定員: 36名(事前申込み制)

会場: 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎F502教室

講師: 有田 五郎 特任講師

★ 詳細は「就業力GP」のHP(<http://3step.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。

◆ 編集後記:

後期授業が始まり、大学にも活気が戻ってきました。昼休みには恒例の応援団によるデモンストレーションの爆音が響いています。「応援団は就職がいい」と言われますが「では、なぜ?」という真面目な分析はなされていません。就業力の科目を受講すれば、きっとそんなことも判ってくるはず。≪ 応援団OBの事務局: 細田 ≫

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**
文科科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」採択プロジェクト